

ジャディアンス錠 10mg、ジャディアンス錠 25mg

【この薬は？】

販売名	ジャディアンス錠 10mg Jardiance Tablets 10mg	ジャディアンス錠 25mg Jardiance Tablets 25mg
一般名	エンパグリフロジン Empagliflozin	
含有量 (1錠中)	エンパグリフロジン 10mg	エンパグリフロジン 25mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、SGLT2 阻害剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、腎臓の SGLT2*のはたらきを阻害して尿と一緒に糖を排出することで血糖値を下げます。
※ SGLT2：腎臓で糖を再吸収する役割をもつたんぱく質です。
- ・次の病気の人に処方されます。

2 型糖尿病

- ・この薬は、糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を行ったうえで効果が不十分な場合に限り、医師の判断により処方されます。
- ・1 型糖尿病の人、腎臓に高度の障害がある人、または透析中の腎不全の人は、この薬を使用することができません。
- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要

です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にジャディアンス錠に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
- ・重いケトosis状態（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸）の人、糖尿病性の昏睡状態の人、糖尿病性の昏睡状態になりそうな人
- ・重い感染症にかかっている人、最近手術をした人、または手術の予定がある人、大きな怪我をしている人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・脱水を起こしやすい人（血糖コントロールが極めて不良な人、高齢の人、利尿剤を使用している人等）
- ・尿路の感染症にかかっている人、性器の感染症にかかっている人
- ・脳下垂体機能に異常のある人、または副腎機能に異常のある人
- ・栄養状態の悪い人、飢餓状態の人、食事が不規則な人、食事が十分に摂れていない人、または衰弱している人
- ・激しい筋肉運動をしている人
- ・飲酒量が多い人
- ・他に糖尿病薬（特に、スルホニルウレア剤またはインスリン製剤）を使用している人
- ・肝臓に重度の障害がある人
- ・腎臓に中等度の障害がある人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

一回量	1錠 [*]
飲む回数	1日1回朝食前または朝食後

※ 1回10mgを服用しても効果が不十分な場合には、1回25mgに増量されることがあります。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

指示された時間に飲み忘れたら、1回とばして、次の指示された時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・ 低血糖症状（ふらつき、脱力感、冷や汗、めまい、頭痛、動悸（どうき）、空腹感、手足のふるえ）があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合は、通常は糖質を含む食品や砂糖をとってください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。この薬を使用するにあたっては、患者さんやご家族の方は、これらのことを十分に理解できるまで説明を受けてください。
 - ・ インスリン製剤またはスルホニルウレア剤と併用した場合、低血糖症状がおこりやすくなるため、医師の判断で、スルホニルウレア剤の飲む量やインスリン製剤の使用量が減らされることがあります。低血糖症状の一つとして意識消失を起こす可能性がありますので、糖尿病用薬を飲んでいることを必ず家族やまわりの方にも知らせてください。
 - ・ この薬を使用中は、定期的に血糖の検査が行われます。この薬を3ヶ月使用しても十分に効果が得られない場合は、治療が変更される場合もあります。
 - ・ 不養生や感染症の合併などにより薬が十分にきかなくなることがあります。
 - ・ この薬を使用中は、定期的に腎機能の検査が行われます。腎臓に中等度の障害がある場合、医師の判断で使用が中止されることがあります。
 - ・ 過剰な糖が尿と一緒に排泄されるため、尿路の感染症（尿が近い、残尿感、排尿時の痛みなど）をおこし、腎盂腎炎（じんうじんえん）、敗血症などの重篤な感染症に至ることがあります。また、膣カンジダ症などの性器の感染症（陰部のかゆみなど）をおこすことがあります。このような症状があらわれた場合には、医師に相談してください。この薬を使用するにあたっては、患者さんおよびご家族の方は、これらのことを十分に理解できるまで説明を受けてください。
 - ・ この薬の作用により過剰な糖が尿と一緒に排泄されるため、それに伴って脂肪酸の代謝が亢進し分解物であるケトン体が増え、ケトアシドーシス*があらわれることがあります。
 - ・ 吐き気、嘔吐（おうと）、食欲がない、腹痛、過度な口渇、からだがだるい、息苦しい、意識の低下などの症状が認められた場合には、直ちに医療機関を受診してください。血中または尿中ケトン体を含む検査が行われることがあります。
 - ・ 特に、インスリン分泌能が低下している人、インスリン製剤を減量・中止した人、過度な糖質摂取制限をおこなっている人、食事が十分に摂れていない人、感染症にかかっている人や、脱水症状のある人ではケトアシドーシスをおこしやすいので、注意してください。
- ※ ケトアシドーシス：脂肪酸がエネルギー源として使われるときに、分解物であるケトン体という物質が血液中に溜まると、血液が酸性に傾きます。その状態を「ケトアシドーシス」といいます。
- ・ 尿の量が増えたり、排尿回数が増えたりすることがあります。脱水があらわれることがあるので、適度な水分を補給してください。
 - ・ 脱水の疑われる症状（尿量の変化、のどが渇く、からだがだるい、脱力感、めまい、皮膚の乾燥など）があらわれた場合は、医師に相談してください。
 - ・ 高所作業や自動車の運転中などに低血糖をおこすと事故につながりますので、特に注意してください。

- ・ 過剰な糖が尿と一緒に排出されるため、この薬の使用中は尿糖検査が陽性になります。尿糖検査を受ける場合には、医師にこの薬を飲んでいることを伝えてください。
- ・ 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・ 授乳中の方は、授乳を避けてください。
- ・ 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖症 ていけつとうしょう	ふらつき、脱力感、冷や汗、めまい、頭痛、動悸（どうき）、空腹感、手足のふるえ
脱水 だっすい	尿量の変化※、からだのだるい、のどが渇く、脱力感、めまい、皮膚の乾燥
ケトアシドーシス	吐き気、嘔吐、食欲がない、腹痛、過度な口渇、からだのだるい、息苦しい、意識の低下
腎盂腎炎 じんうじんえん	悪寒（おかん）、発熱、脇腹の痛み、背部痛
敗血症 はいけつしょう	悪寒やふるえを伴う急激な高熱がでる、関節の痛み、筋肉の痛み









※（【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】参考）

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	ふらつき、脱力感、冷や汗、悪寒、発熱、からだのだるい、悪寒やふるえを伴う急激な高熱がでる、関節の痛み、筋肉の痛み
頭部	めまい、頭痛、意識の低下
口や喉	のどが渇く、吐き気、嘔吐、過度な口渇
胸部	動悸（どうき）、息苦しい
腹部	空腹感、脇腹の痛み、食欲がない、腹痛
皮膚	皮膚の乾燥
筋肉	筋肉の痛み
背中	背部痛
手・足	手足のふるえ、関節の痛み
尿	尿量の変化※（【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】参考）

※（【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】参考）

【この薬の形は？】

販売名	ジャディアンス錠 10mg	ジャディアンス錠 25mg
形状		
直径	9.1mm	11.1×5.6mm
厚さ	3.65mm	3.8mm
重さ	257mg	206mg
色	淡黄色	淡黄色
識別コード		
PTPシート	<p>表</p>  <p>裏</p> 	<p>表</p>  <p>裏</p> 

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ジャディアンス 10mg	ジャディアンス 25mg
有効成分	エンパグリフロジン	
添加物	乳糖水和物、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、クロスカルメロースナトリウム、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、タルク、マクロゴール 400、黄色三二酸化鉄	

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

- 一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
(<http://www.boehringer-ingelheim.co.jp>)
D I センター
電話：0120-189-779
受付時間：9：00～18：00
(土、日、祝日、弊社休業日を除く)

販売提携会社：日本イーライリリー株式会社